２　研究の実際

ウ　中学校自閉症・情緒障害特別支援学級（１年）の取組

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する中学校１年生の生徒に対して、特別支援学級担任が、学習面や行事など学校の教育活動全体を通して合理的配慮を提供した事例である。

対象生徒は、交流学級の友達と一緒に勉強したい、高校へ進学したいという思いがあり、ほぼ交流学級で学習している。しかし、読み書きの困難さがあり、板書を写したり、読んだりすることに時間が掛かる。また、緊張したり頑張り過ぎたりすると、本人が予想する以上に疲れてしまい、体調を崩し、登校が不安定になることがある。

そこで、対象生徒が安心して学校生活を送ることができるように、見通しを持たせたり、読み書きの困難さに応じて教材を工夫したり、必要に応じて休憩時間を設定したりするなどの配慮をした。

P(調整・決定)シート

１　意思の表明

本人	・友達と楽しく過ごしたい。 ・高校へ進学したい。
保護者	・友達と問題なく関わってほしい。 ・学校で楽しく過ごしてほしい。
引継ぎ等	・小学校４年生から、登校しぶりが見られた。小学校５年生から自閉症・情緒障害特別支援学級に入級した。 ・遅刻や欠席が多く、授業に参加することが少なかったため、小学校の学習内容が十分には習得できていない。 ・相手の気持ちを想像することが苦手で、小学校のときは、対人関係のトラブルが多かった。交流学級での学習や集団での活動に参加することが難しかった。 ・定期的に通っている関係機関で行われた中学校への進学に向けたプログラムに参加した。

２　調　整

実態把握

学習面	・歌う、演奏する、絵を描く、制作するなどの表現活動が好きである。 ・与えられた課題は期限内に提出しようと努力している。 ・筆圧がやや強く、文字を書いたり、板書を写したりするのに、時間が掛かる。 ・読めない漢字が多い。 ・テストでは、緊張すると、理解している内容にも取り組むことができないことがある。また、腹痛を訴えることもある。

生活面	・初めてのことや経験の少ないことに対しては不安が大きく、消極的になる。 ・中学校に入学してからは、週に１～２回程度、遅刻することがあるが、欠席はほとんどない。 ・授業が始まっている教室に、途中から入ることができない。また、授業に不安を感じると、トイレに行って、なかなか出てこないことがある。 ・突然の大きな音が苦手である。 ・自分から休むことができないため、頑張り過ぎて疲れやすくなることがある。
人との関わり	・昼休みは、仲の良い友達数名と特別支援学級でカードゲームをして過ごしている。 ・相手から言われたことを字義通りに受け取るため、言い争いになることがある。 ・人の名前と顔が一致しにくい。
その他（生育歴・検査等）	・自閉スペクトラム症の診断を受けている。 ・ＷＩＳＣ－Ⅳでは、境界の域にある。 ・関係機関を定期的に利用している。

検　討

【時　期】 前年度２月中旬　移行支援会議

【参加者】 管理職、小学校特別支援教育コーディネーター、小学校特別支援学級担任、中学校特別支援教育コーディネーター、中学校特別支援学級担任、巡回相談員、関係機関

【内　容】 入学式や、交流学級での学級開きへの参加の仕方について、対象生徒の不安感を軽減するため、入学前に以下のように検討した。

①小学校を卒業する前に、中学校で新しく始まる学習内容等について小学校の先生から話をする。

②春季休業中に、対象生徒、保護者、小学校と中学校の特別支援学級担任で入学に向けて、分からないことや不安なことについて話し合う。

③入学式前日に、対象生徒のクラスと担任の名前を知らせ、教室と式場の下見をさせ、入学式の流れを確認させる。

④聴覚の過敏さがあるため、歓迎の吹奏楽部の演奏でパニックにならないように、演奏があることを事前に知らせる。

⑤入学式や交流学級での学級開きに参加できないときには、中学校特別支援学級担任が対応する。

【資　料】 ・中学校の入学オリエンテーションの冊子
・入学式の式場図
・小学校時代の個別の教育支援計画及び個別の指導計画
・ＷＩＳＣ－Ⅳの検査結果

【時　期】 ５月初旬

【参加者】 管理職、学年主任、特別支援教育コーディネーター、特別支援学級担任、交流学級担任、巡回相談員

【内　容】 中学校での対象生徒の様子や巡回相談員による学習場面の観察を基に、学習面や生活面において配慮することや、支援方法等について検討した。

対象生徒が安心して登校し、主体的に学習活動に取り組むことができるように以下のような支援が必要だと考えた。

① 初めてのことへの不安や、失敗を恐れる気持ちが強いため、活動への取り組み方等を伝える。

② 交流学級での対象生徒の座席は、教科や活動内容によって配慮する。

③ 遅刻や欠席で交流学級の授業を受けることができなかった時は、特別支援学級で補充学習をする。

④教科書や教材、テスト問題で対象生徒が読めないと思われる字には読み仮名を付けたり、読み上げて確認したりする。

⑤書く場面では、書く量を調整する。

⑥中学校でのテストの記述の仕方や解き方等について、特別支援学級で教える。

【資　料】・小学校時代の個別の教育支援計画及び個別の指導計画
・個別の教育支援計画及び個別の指導計画
・合理的配慮検討シート、個別の教育支援計画

合意形成

【時　期】５月初旬　家庭訪問

【参加者】保護者、特別支援学級担任、交流学級担任

【内　容】　検討した①～⑥の支援内容を保護者に提案した。上記の合理的配慮を提供し、夏季休業中に評価、見直しをする。

また、各行事に取り組む前に、対象生徒や保護者と参加の仕方について話し合う。

【資　料】合理的配慮シート、個別の教育支援計画

３　決　定

長期目標

・中学校の生活に慣れ、安心して学校生活を送ることができる。
・授業に安心して参加し、学習内容を理解することができる。

①　教育内容・教育方法	②支援体制	③施設・設備
・対象生徒の１日の流れを、特別支援学級教室に掲示する。 ・１日の生活を振り返り、頑張ることができた点を対象生徒と確認し、達成感を味わわせる。 ・交流学級での座席は、教科や活動内容によって配慮する。 ・書く量を軽減する。	・交流学級の担任との連携を図る。 ・対象生徒の学習方法や教材、課題への取り組み方等について、教科担任との連携を図る。 ・障害への理解や支援の在り方について、全職員で共通理解を図る。 ・巡回相談を活用する。	・疲れたときや情緒が不安定になったときに、休憩できる場所を確保する。

・対象生徒が読むことができないと予想される漢字に読み仮名を付ける。 ・中学校でのテストや課題の取り組み方について、特別支援学級で教える。 ・行事の前には、前回の様子を写真や動画で知らせ、見通しを持たせる。		

※決定した内容は、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、合理的配慮シートに明記します。

＊＜合理的配慮：３観点11項目＞　　＊該当する項目に○を付けて下さい。

①－１　教育内容
（ ○ ）学習上又は生活上の困難を改善・克服
（ ○ ）学習内容の変更・調整
①－２　教育方法
（ ○ ）情報・コミュニケーション及び教材の配慮
（ ○ ）学習機会や体験の確保
（ ○ ）心理面・健康面の配慮

②　支援体制
（ ○ ）専門性のある指導体制の整備
（ ○ ）幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解・啓発
（　　）災害時等の支援体制の整備
③　施設・設備
（　　）校内環境のバリアフリー化
（ ○ ）発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備
（　　）災害時等への対応に必要な施設・設備

次回の検討予定日（９月）

D(提供)-1 シート

長期目標

・中学校の生活に慣れ、安心して学校生活を送ることができる。
・授業に安心して参加し、学習内容を理解することができる。

決定した合理的配慮

・対象生徒の１日の流れを特別支援学級教室に掲示する。
・１日の生活を振り返り、頑張ることができた点を本人と確認し、達成感を味わわせる。
・交流学級での座席は、教科や活動内容によって配慮する。
・書く量を軽減する。
・対象生徒が読むことができないと予想される漢字に読み仮名を付ける。
・中学校でのテストや課題への取り組み方について、特別支援学級で教える。
・行事の前には、前回の様子を写真や動画で知らせ、見通しを持たせる。
・交流学級の担任との連携を図る。
・対象生徒の学習方法や教材、課題への取り組み方等について、教科担任との連携を図る。
・障害への理解や支援の在り方について、全職員で共通理解を図る。
・巡回相談を活用する。
・疲れたときや情緒が不安定になったときに、休憩できる場所を確保する。

実際の指導場面における合理的配慮の提供について

①教育内容・方法

場面	対象生徒の目標	内容　　（　　）は主な支援者
学習面	・学習内容を理解する。	・プリントや教科書等の漢字に読み仮名を付ける。（特別支援学級担任） ・机間指導の際は、対象生徒の活動の取組状況を必ず確認する。（教科担任、生活指導員） ・帰りの会終了後、対象生徒と課題の確認をしたり、授業で取り組んだ内容を振り返ったりする。また、必要に応じて補充学習をしたりする。（特別支援学級担任） ・書く課題は、対象生徒と担任、教科担任で取り組む量を検討して決定する。（教科担任、特別支援学級担任）

	・テストの受け方や課題への取り組み方について理解する。	・一人で取り組むことが難しい課題の場合は、放課後に取り組み方について確認する。（特別支援学級担任） ・夏季休業中の課題への取り組み方の計画を一緒に立てる。（特別支援学級担任）
生活面	・安心して交流学級で生活する。	・登校後、特別支援学級で１日の流れを確認し、交流学級に行くときには教室まで一緒に移動する。（特別支援学級担任） ・初めての活動のときには、見通しが持てるように声を掛ける。（交流学級担任、特別支援学級担任）
	・遅刻しても、できるだけ授業に出席する。	・登校の仕方について、保護者と連絡を取り合う。（特別支援学級担任） ・登校や授業の参加の仕方について、対象生徒と一緒に考える時間を設ける。（特別支援学級担任）
	・必要に応じて休憩を取ることができる。	・経験が少ない活動に取り組んだ後は、休憩する場と過ごし方を提案する。（特別支援学級担任）
行事等 （体育大会） （文化発表会）	・行事に見通しを持って参加することができる。	・本人に活動の流れを理解させるために、体育大会は夏季休業中に、文化発表会は練習期間に入る前に、前年度の写真や動画を見せたり、特別支援学級の上級生に話を聞いたりする機会を設ける。（特別支援学級担任） ・行事の練習中には、休憩の取り方を、対象生徒と確認したり、適宜声を掛けたりする。（同学年の教職員等、特別支援学級担任） ・音への感覚過敏等があるため、事前に活動への参加の仕方を確認したり、参加を見合わせたり、別の活動をさせたりする。（特別支援学級担任） ・行事の練習や準備が始まってしばらくの間は、本人の不安や緊張が解消されるまで、一緒に活動する。（特別支援学級担任）

②支援体制

項目	時期	内　容
職員会議	４月初旬	・前年度２月に行った移行支援会議で得た対象生徒の情報について、校内の教職員全体で共通理解する。
ケース会議	４月下旬以降	・対象生徒が困っている様子が見られるときや、初めて経験する活動のときには、各教科担任や、生活指導員が声を掛けるように共通理解を図る。

巡回相談①	５月初旬	・授業参観後、小学校からの引継ぎやこれまでの対象生徒の中学校での様子を基に、１学期の支援方針や、具体的な支援の方法等について話し合い、共通理解を図る。参加者は、教頭、特別支援教育コーディネーター、学年主任、交流学級担任、特別支援学級担任、巡回相談員。
学年部会	5月中旬	・巡回相談①を受けて、学年職員で共通理解を図る。
巡回相談②	9月中旬	・授業参観後、２学期の対象生徒への支援方針や、具体的な支援の方法等について話し合い、共通理解を図る。
学年部会	9月下旬	・巡回相談②を受けて、学年職員で共通理解を図る。
巡回相談③	3学期	・進級に向けて、今後の支援方針等について話し合い、次年度への引継ぎ事項をまとめる。

③施設設備

項目	時期	内　容
休憩できる場所の確保	４月上旬	・疲れたときや情緒が不安定になったときに、休憩できる場所を確保する。

D(提供)-2 シート

合理的配慮の実際

1　合理的配慮の提供場面

理科「酸素と二酸化炭素の性質を調べる」

2　本時の目標

○身近な気体に興味を持ち、意欲的に調べることができる。
○酸素と二酸化炭素の発生や捕集の実験を正しく行うことができる。
○実験結果を基に、酸素と二酸化炭素の性質を説明することができる。

3　合理的配慮を取り入れた本時の授業について

本時では、私たちの生活に関わりの深い気体である酸素と二酸化炭素を発生させ、それらの気体の性質に気付かせることをねらいとしている。実験を通して酸素や二酸化炭素の発生方法を習得し、性質の違いや、気体の性質に応じた捕集方法などを理解させる。

本学級の生徒は、理科の実験を楽しみにしている。一方で、集中の持続が難しかったり、情報が多過ぎると教師の指示や説明を聞き漏らしてしまったりする。そのため、実験に必要な道具が足りないまま実験を始めてしまったり、実験の手順を間違ったりする生徒も少なくない。また、生徒間の学力には差も見られる。

対象生徒は、小学校のときから理科が好きである。授業中は、教師の話を興味深く聞き、学習内容を理解したいという気持ちが強い。しかし、小学校のときの班で行う実験で、班の友達と意見が合わず実験がうまくいかなかった経験があり、実験に対して不安を感じている。また、読むことや書くことに対して苦手さを抱えており、時間が掛かる。

そこで、対象生徒の座席を、教師の指示が聞き取りやすく、黒板や電子黒板を見やすい位置にして、理科の学習ノートの難しい漢字にはあらかじめ読み仮名を付けておくことにした。また、安心して実験ができるように、同じ実験班になるメンバーは、関係が良好で、対象生徒への理解がある生徒とし、１年間変更しないこととした。さらに、本学級の理科の授業はＴＴの指導形態にし、対象生徒の様子は特別支援学級担任（Ｔ２）が見守るようにし、教科担当（Ｔ１）の指示や説明を聞き漏らしている他の生徒への対応もＴ２が行うようにする。対象生徒に困った様子が見られなかったり、意欲的に活動できたりしている場合は、声掛けは最小限にするようにし、授業後に称賛し、自信を持たせるようにしたい。

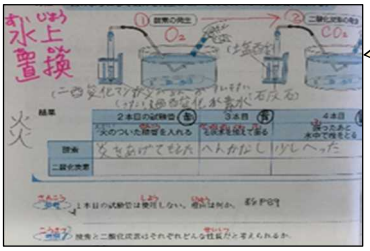
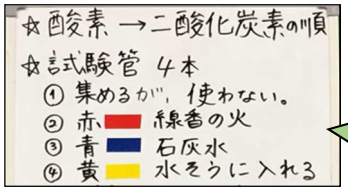
4　対象生徒へ提供する主な合理的配慮

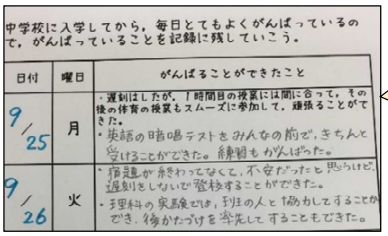
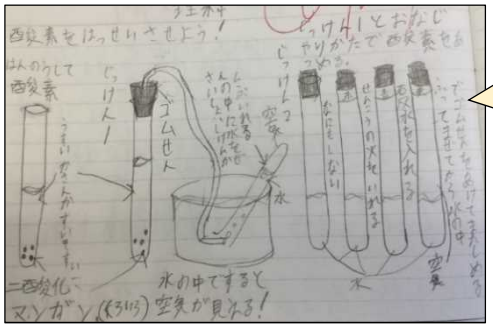
Ｔ１：教科担当　Ｔ２：特別支援学級担任

提供する合理的配慮　（　　）は主な支援者
・対象生徒の座席を、教師の指示を聞き取りやすく、集中しやすい最前列とする。（Ｔ１） ・同じ実験班になるメンバーは、対象生徒との関係が良好な生徒とし、1年間固定する。（Ｔ１） ・対象生徒が読むことが難しいと思われる漢字には、理科ノートに読み仮名を付ける。（Ｔ２） ・書くことが難しい漢字は、漢字を拡大して書いたメモを渡すようにし、平仮名で書いてもよいこととする。（Ｔ２） ・落ち着いて授業に参加できるように、対象生徒には全体に指示を出す前に、個別に指示の内容を知らせる。（Ｔ２） ・対象生徒に達成感を味わわせるために、学習を振り返らせる。（Ｔ２）

５　授業の実際　　（◎合理的配慮）

担任の所感　対象生徒

学習活動	教師の働き掛け　（　）は支援提供者	取組の様子
【授業前】	◎対象生徒の座席を、説明や指示を聞き取りやすく、集中しやすい最前列にした。（Ｔ１） ◎同じ実験班のメンバーは、対象生徒との関係が良好な生徒にした。（Ｔ１） ◎理科の学習ノートで読むことが難しいと思われる漢字には、読み仮名を付けた。（Ｔ２）  ◎前日に特別支援学級で、明日の気体発生の実験を予告し、小学校時代にどのような学習をしたのか質問して、既習事項を思い出させた。（Ｔ２） ・実験セットを準備した。 	理科の授業では、指示通りに活動に取り組むことができるようになりました。 読み仮名が付いていたので、書かれていることの意味がすぐ分かって良かったです。 前日にどのような実験をするのか分かっていたので、当日は安心して、楽しく参加することができました。 本人の理解が十分ではない点を事前に把握することができました。 試験管をテープで色分けして、収集の本数と何の確認実験をするのかを分かるようにしたので、間違うことなく実験できていました。
１　今日の流れを知る。 ２　既習事項と今日のめあての確認をする。	・本時は、気体を発生させる実験をすることを伝えた。 ・既習事項を思い出させ、今日のめあてを確認させた。	
	めあて　酸素と二酸化炭素を発生させて、その性質を確認しよう。	
	・注意を喚起してから、全員で実験方法と準備物、実験の手順をホワイトボードで確認させ、黒板に提示した。  	ホワイトボードの掲示は、他の生徒にとっても、確認するのに役立っていました。
３　実験をする。	・班全員で協力して実験するように指示した。 ・机間指導をしながら、対象生徒の班の進行具合	

	を確認し、実験操作の要点を再確認させた。（Ｔ２）	分かったことを書いておこう！
4　理科ノートに結果を記入する。	◎早めに実験が終了していたら、理科ノートに結果とまとめの記入をするように声を掛けた。（Ｔ２） ・理科ノートの記入が終わっていない生徒に声を掛け、記入を促した。（Ｔ２）	対象生徒の活動の取組状況を確認し、その都度声を掛けました。 順調に実験が進んでいたので、簡単に再確認をして、遅れている別の班の指導もできました。
5　後片付けをする。	・実験道具を、班全員で協力して片付けさせた。	
6　実験のまとめをする。	・終了時刻になったことを知らせ、全体で実験結果の確認をさせた。 ・理科ノートの記入が終わっていない分は宿題とすることを伝えた。	早めに分かったことを理科ノートに書いておいたので、宿題にはならなくて、ホッとしました。
7　次時の予告をする。	・次時は、酸素と二酸化炭素以外の気体を発生させ、性質の確認をすることを伝えた。	
【授業後】	◎対象生徒の「今日がんばったことシート」に今日の理科の授業で、本人の良かった点を支援学級担任と一緒に記入した。（Ｔ２）  中学校に入学してから，毎日とてもよくがんばっているので，がんばっていることを記録に残していこう。 日付 / 曜日 / がんばることができたこと 9/25 月 ・遅刻はしたが，1時間目の授業には間に合って，その後の体育の授業もスムーズに参加して，頑張ることができた。 ・英語の暗唱テストをみんなの前で，きちんと受けることができた。練習もがんばった。 9/26 火 ・宿題が終わってなくて，不安だったと思うけど，遅刻もしないで登校することができた。 ・理科の実験では，班の人と協力してすることができ，後かたづけを率先してすることもできた。 ◎対象生徒に質問する形で、授業の要点を挙げさせ、復習とした。（Ｔ２）  	先生から授業で良かったところを言われて、嬉しかったです。 その日に学習したことを先生に確認してもらって、復習ができました。家に帰って、自学ノートにもうまくまとめることができて嬉しかった！

D(提供)-3シート

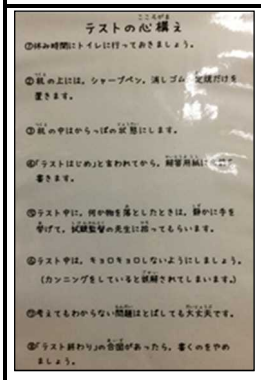
合理的配慮の具体例

場　面	学習面	定期テスト、実力テストの受け方

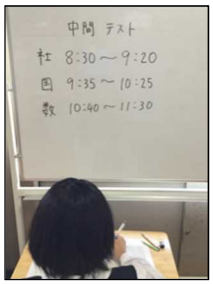
合理的配慮の内容

・対象生徒と保護者、特別支援学級担任が話し合いながら、テストの受け方を決める。

・問題の文字が小さく読み取りにくいときは、特別支援学級担任が問題用紙の拡大を行う。



【テストの心構え】



【特別支援学級でテストを受けている様子】

対象生徒は、テストを受けることや一人で難しい問題に根気強く取り組むといった経験が不足している。また、緊張すると、腹痛を訴えたり、自分一人で解くことのできる問題にもつまずき、パニック状態になったりする。

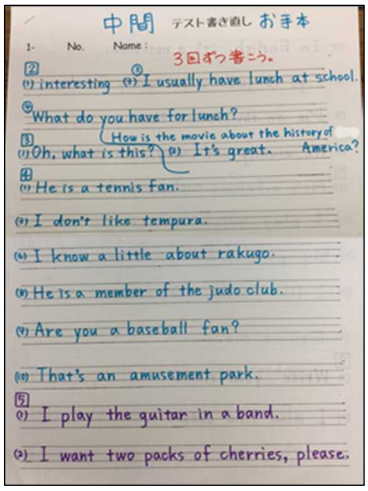
そこで、対象生徒と保護者、特別支援学級担任が話し合い、１年生の間は、リスニングが実施される英語のテストだけは、環境に慣れるために交流学級で受け、それ以外の教科のテストは、特別支援学級で受けることに決めた。また、将来的に集団の中で全てのテストを受けるときに困らないように、テストの心構えを作成し教室に掲示した。

１学期は、テスト中にトイレに行くことが何度かあったが、その後は、落ち着いてテストを受けることができるようになった。

場　面	学習面	英語のテストにおいて間違った問題のやり直し

合理的配慮の内容

・本人が間違った問題の正しい答えをやり直し用のプリントに特別支援学級担任が記入し、やり直しのお手本をつくる。



【やり直しのお手本】

書き写すことに困難さがあるため、正答と誤答の中から、誤答を探し出して、英語を書くことは非常に難しい課題となる。

そこで、特別支援学級担任が転写した手本を見ながら、対象生徒が間違った問題のやり直しをすることができるようにした。

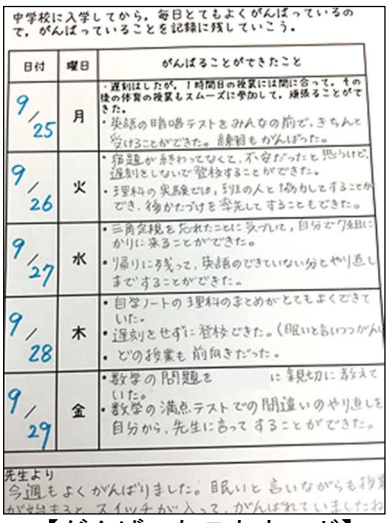
対象生徒は、テストの点数がよくなかったことと、膨大な数のやり直しをすることでやる気をなくしていた。しかし、お手本を本人に渡すと、決められた期限内にやり直しの課題を提出することができた。他の生徒と同じように課題を提出することができたことに満足そうであった。

場　面	生活面	１日や１週間の振り返り

合理的配慮の内容

・毎日、１日の振り返りを特別支援学級で行う。

・１週間の終わりに、翌週に頑張りたいことを対象生徒と話し合う。



中学校に入学してから，毎日とてもよくがんばっているので，がんばっていることを記録に残していこう。

日付	曜日	がんばることができたこと
9/25	月	・遅刻はしたが，1時間目の授業には間に合って，その後の体育の授業もスムーズに参加して，頑張ることができた。 ・英語の暗唱テストをみんなの前で，きちんと受けることができた。練習もがんばった。
9/26	火	・宿題が終わってなくて，不安だったと思うけど，遅刻をしないで登校することができた。 ・理科の実験では，3人の人とはげましをすることができ，物がたづけを率先してすることもできた。
9/27	水	・三角定規を忘れたことに気づいて，自分から組にかりに来ることができた。 ・帰りに残って，英語のできていない分とやり直しまですることができた。
9/28	木	・自学ノートの3理科のまとめがとてもよくできていた。 ・遅刻をせずに登校できた。(眠いと言いつつがん ・どの授業も前向きだった。
9/29	金	・数学の問題を　　に親切に教えていた。 ・数学の満点テストでの間違いのやり直しを自分から，先生に言ってすることができた。

先生より
今週もよくがんばりました。眠いと言いながらも授業が始まると，スイッチが入って，がんばれていましたね

【がんばったことカード】

移行支援会議を通して、対象生徒は対人関係を築くことが苦手なために登校できない状態にあったことが分かった。しかし、中学校入学後、対象生徒は、ほとんど欠席しないで登校することができていた。そこで、その努力の様子や成長を目に見える形で残すために、「がんばったことカード」を作成し、１週間ごとにファイリングした。

対象生徒は、称賛されると喜び、やる気が出るようだったため、毎日、頑張ったことを話し合いながらカードに記入し、称賛するようにした。徐々に自信を持つことができるようになった様子で、交流学級内での表情も明るくなり、自分から級友に声を掛けたり、得意なことは教えたりする場面が増えた。

場　面	行事等	体育大会の練習及び本番への参加の仕方

合理的配慮の内容

・対象生徒と話し合いながら活動の見通しを持たせ、参加の仕方を決める。

・練習期間中の予定の変更は、特別支援学級担任が対象生徒に個別に説明して、参加することができるかどうかも確認する。

【練習から体育大会当日まで掲示した練習計画及び活動の流れ】

初めての活動に不安を大きく感じる対象生徒のため、夏季休業中に昨年度の体育大会の動画と今年度のプログラムを特別支援学級担任と一緒に見ながら、１年生が参加する種目を確認した。種目の数や内容について説明し、「初めての体育大会なので、全部参加することができなくても大丈夫」といった声掛けや、見学や休憩ができる場所を準備していること、練習中は特別支援学級担任が近くにいるようにすることなども確認した。

雨のため予定の変更が多かったが、全ての練習に他の生徒と同じように参加することができた。また、当日も始めから終わりまで交流学級の仲間と参加することができ、大きな達成感を味わうことができた様子だった。体育大会が終わった直後、本人は「楽しかった」と笑顔で感想を述べた。

C(見直し)シート

見直し

検　討

【時　期】９月中旬
【参加者】特別支援学級担任、交流学級担任
【内　容】　決定した合理的配慮の成果と課題について、対象生徒の学習面や生活面の様子を振り返りながら話し合った。

成果と課題

○交流学級での対象生徒の座席を配慮したことで、対象生徒は遅れて登校した場合等も教室へ入室しやすいようだった。また、各教科担任に自分から質問をすることができていた。
○対象生徒の交流学級での授業の様子や学習内容について、各教科担任と連絡を密に行った。学習内容の理解状況を把握することができ、特別支援学級で適切な補充学習をすることができた。また、教科担任が対象生徒の抱える困難さを理解する機会にもなった。
○対象生徒にとって読むことが難しいと予想される漢字に読み仮名を付けた。対象生徒は授業で使うプリント等を読むことができ、主体的に学習に参加することができた。
●教科や単元によっては、テストを受けることに対する緊張感が高い様子が見られた。腹痛を訴えたり、テストの途中でトイレに行ったりすることがあった。テストの受け方について検討する必要がある。

合理的配慮の変更点

これまでの合理的配慮は今後も継続する。以下の点については、今後取り組んでいきたい。
・テスト前に、対象生徒が不安に感じることについて、対象生徒と特別支援学級担任とで話し合うようにする。

合意形成

【時　期】９月下旬　個人面談
【参加者】保護者、特別支援学級担任
【内　容】　検討した成果と課題、変更した合理的配慮について提案した。
今後も定期的に評価、見直しを行い、年度末は次年度への引継ぎについて話し合う予定である。

A(引継ぎ)シート

引継ぎ

【時　期】３月　修了式後
【参加者】特別支援学級担任、交流学級担任、学年主任、特別支援教育コーディネーター
【方　法】　個別の教育支援計画及び個別の指導計画を基に、下記の引継ぎ内容について話合いをする。
【内　容】定期的に見直してきた以下の合理的配慮を引継ぎ内容とした。

・対象生徒の１日の流れを特別支援学級教室に掲示する。
・１日の生活を振り返り、頑張ることができた点を本人と確認し、達成感を味わわせる。
・交流学級での座席は、教科や活動内容によって配慮する。
・書く量を軽減する。
・対象生徒が読むことができないと予想される漢字に読み仮名を付ける。
・テスト前には、テストの受け方や受験場所、テスト範囲等を一緒に確認する。
・行事の前には、前回の様子を写真や動画で知らせ、見通しを持たせる。
・交流学級の担任との連携を図る。
・対象生徒の学習方法や教材、課題への取り組み方等について、教科担任との連携を図る。
・障害への理解や支援の在り方について、全職員で共通理解を図る。
・巡回相談を活用する。
・疲れたときや不安定になったときに、休憩できる場所を確保する。

【時　期】４月　始業式前
【参加者】保護者、（旧・新）特別支援学級担任、（新）交流学級担任、特別支援教育コーディネーター
【方　法】　前年度末の会議で話し合った引継ぎ内容について確認する。特に、学校行事や交流学級での授業への参加の仕方、テストの受け方等について話し合う。全職員には、４月の職員会議で、対象生徒についての説明を行い、共通理解を図る。

成果と課題

成　果

○移行支援会議を活用した合理的配慮の決定

前年度の２月に、小学校と中学校の関係者と専門家で移行支援会議を開いた。中学入学後、対象生徒にとって困難が予想されることについて対応策等を検討し、合理的配慮を決定、提供した。その結果、対象生徒は、小学校では主に特別支援学級で過ごしていたが、中学校入学後は、交流学級で生活することができるようになった。また、関係機関による新入生オリエンテーションを受けたことで、中学校生活におけるルールや授業の受け方などを事前に理解することができ、安心して交流学級で授業を受けることができた。

○対象生徒や保護者と十分な話合いをした上での合理的配慮の提供

移行支援会議を受け、授業やテストの受け方、遅れて登校したときの対応、行事への参加の仕方等について、対象生徒や保護者と話合いを十分に行った。その結果、信頼関係を築くことができ、様々な情報について対象生徒や保護者と共通理解を図ることができた。対象生徒の学校生活での安定につながった。

○読み書きへの困難さを軽減するための合理的配慮の提供

対象生徒は読み書きへの困難さを抱えている。そこで、対象生徒にとって読むことが難しい漢字に、読み仮名を付ける等負担を軽減する合理的配慮を提供した。その結果、ワークシートやテストの漢字を自分で読むことができるようになり、交流学級での学習に意欲的に取り組む様子が見られるようになった。交流学級で学習する機会が増えたため、友達と関わることも増えた。

課　題

○合理的配慮を提供したことにより、対象生徒は、交流学級での学習や生活に参加する機会が増えた。そのため、学習面や生活面において同学年担任や教科担任との連携が大切であると感じた。そこで、今後、更に集団参加を進めるためには、全職員で共通理解を図り、支援体制を整える必要がある。

○対象生徒は高校に進学したいという希望を持っている。そのため、高校進学に向けた学習への取り組み方や学校生活の過ごし方等について、検討する必要があると考える。

平成 29 年度　個別の教育支援計画

記入者名：○○　○○　　記入日：平成 29 年　5 月　○日

○○市立　○○中学校　　1　年　○　組		校長名	○○　○○	担任名	○○　○○
氏名（しめい）	○○　○○　　（男・女）	生年月日	平成　○　年　○　月　○　日		
保護者名	○○　○○	家族構成	○　○　○　○		
住所	〒○○○－○○○○	ＴＥＬ	○○○-○○○○-○○○○		
	○○市　○○町　○○○○　○○－○○				

現在の生活、将来の生活についての願い			
本人の願い	・友達と楽しく過ごしたい。 ・高校へ進学したい。	保護者の願い	・友達との関係がうまくいってほしい。 ・学校で楽しく過ごしてほしい。

本人の状況（学習面、集団参加・社会性、対人関係・コミュニケーション、他）	
学校	・小学校時代は、遅刻や欠席が多く、学習時間が不足しており、学習内容を十分に習得できていない。小児うつの診断があり、その日の気分によって、活動の様子に違いが見られた。 ・中学校では欠席や遅刻が減り、交流学級での学習や活動に対して意欲的に取り組んでいる。 ・繊細な部分があり、急に不安定になることもあるが、特別支援学級担任がその不安に対する解決を手助けすると、意欲を持続させることができている。
家庭	・中学校入学時より、タブレットを扱う時間は減少し、就寝時間も早くなった。中学校入学が一つのきっかけとなり、全般的に意欲が高まっている。 ・自主学習ノートや各教科の宿題へ取り組み、翌日に遅刻をしないための努力をしている。
地域・関係機関	・医療機関を定期的に受診している。 ・療育を受けている。
支援の目標	・本人の気持ちやペースを尊重し、精神的に落ち着いて学校生活を送ることができるようにする。

主な支援内容			支援者
学校	学級	・気持ちを安定させるため、学校でも許容できる内容の余暇活動を準備する。 ・特別支援学級に、不安定になったときに休憩できる場所を設定する。 ・対象生徒が自分で学習に取り組むことができるように、量を調整したり、読み仮名を付けたりする。 ・交流学級で活動する際には、視覚情報を用いて、簡潔で分かりやすい説明を心掛ける。	特別支援学級担任 交流学級担任 特別支援教育支援員
	校内	・学校行事等のときに、対象生徒が困っている様子が見られたときは、声を掛けたり、特別支援学級担任に連絡したりする。 ・対象生徒に対する関わり方について全職員で共通理解を図る。	全職員
家庭		・タブレットの使用時間を制限し、早寝の習慣を付ける。 ・対象生徒の話をしっかりと聞いて、考えを受容し、必要に応じて助言する。	家族
地域			
関係機関 医療、福祉、特別支援学校等		・医療機関：本人が困っていることについて相談を受け、助言する。 ・療育機関：ソーシャルスキルを身に付けさせるために、療育や訓練をする。	○○病院医師 専門家
評価及び引継ぎ事項			

【合理的配慮シート】

○○ 中学校　１年 ○組 氏名 ○○　○○

長 期 目 標
・中学校生活に慣れ、安心して学校生活を送ることができる。 ・授業に安心して参加し、学習内容を理解することができる。

提供する合理的配慮	評価
・対象生徒の１日の流れを特別支援学級教室に掲示する。	継続
・１日の生活を振り返り、頑張ることができた点を対象生徒と確認し、達成感を味わわせる。	継続
・交流学級での座席は、教科や活動内容によって配慮する。	継続
・書く量を軽減する。	継続
・対象生徒が読むことができないと予想される漢字に読み仮名を付ける。	継続
・中学校でのテストや課題への取り組み方について、特別支援学級で教える。 *テスト前には、テストの受け方や受験場所、テスト範囲等を一緒に確認する。*	*変更*
・行事の前には、前回の様子を写真や動画で知らせ、見通しを持たせる。	継続
・交流学級の担任との連携を図る。	継続
・対象生徒の学習方法や教材、課題への取り組み方等について、教科担任との連携を図る。	継続
・障害への理解や支援の在り方について、全職員で共通理解を図る。	継続
・巡回相談を活用する。	継続
・疲れたときや情緒が不安定になったときに、休憩できる場所を確保する。	継続

【提供する合理的配慮を決定した日】

H29 年　５月　○日　児童生徒名　○○　○○　保護者名　○○　○○

担任名　○○　○○　学校長名　○○　○○

次回検討予定日　H29 年　９月　○日